

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、次の2項目（(1)学習活動 (2)学校生活）においてそれぞれ重点課題を定め、今年度のアクションプランとして取り組んだ。

#### (1) 学習活動（中学部）「教員のオンライン授業スキルの向上」

中学部に在籍している生徒の中には体調の変化や周囲の状況によって登校できない時間や期間のある生徒がいる。そのような生徒の学習機会を保障するためにオンライン授業の必要性がある。

本校の教員は、オンライン授業を行った経験が少なく、「スキルや知識を身に付けたい」「分かりやすい授業や課題の提示等ができるようになりたい」と望んでいる教員が多くいた。授業スキル向上のために研修を行い、双方向通信のやり方、より分かりやすく伝える手立てや課題提示の仕方、課題のやり取り等について取り組んだ。

研修では教員同士で模擬授業を行い、方法を確かめ合ったり、課題を共通理解したりすることができた。実際に学校と家庭をつないだオンライン授業を行い、実践からオンライン授業に適する、適さない授業内容や題材があること、生徒の集中力を維持するために実態に応じて時間配分を行わなければならないことが分かった。

#### (2) 学校生活（生活支援部）「危機管理マニュアルの見直し、新規作成と訓練の実施」

これまでの危機管理マニュアルをより使いやすいものになるよう見直し、これまで作成していなかった傷病者緊急対応マニュアルを新たに作成した。加えて、学校周辺で熊の目撃情報が相次いだため、熊侵入時の対応マニュアルも新規作成した。マニュアルの見直しと新規作成したものについては職員会議等で周知し、実際の訓練後にはアンケートを行い、マニュアルや訓練での動きの見直し、改善を図った。また、消防署、隣接する児童生徒が入院している病院、県砂防課とも連携し、マニュアル改善に生かした。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 教師側の評価だけでなく、生徒や保護者からのオンライン授業に対する評価を聴取し、今後の授業に生かしていく必要がある。不登校生徒にとってオンライン授業が安心感につながっているかについて今後検証していく。
- (2) マニュアル等を活用して訓練を行い、その都度反省、見直しを行いながらより良い危機管理マニュアルに改善していく。他校とマニュアルを共有し、良いアイデアを取り入れていく。

## 8 学校アクションプラン

令和7年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン —1—	
重点項目	学習活動(中学部)
重点課題	教員のオンライン授業スキルの向上
現 状	○中学部に在籍している生徒の中には体調の変化や周囲の状況によって登校できない時間や期間のある生徒がいる。そのような生徒の学習機会を保障するためにオンライン授業の必要性がある。 ○オンライン授業の経験のある教員が少なく、「スキルや知識を身に付けたい」「分かりやすい授業や課題の提示等ができるようになりたい」と望んでいる教員が多くいる。
達成目標	オンライン授業についての研修の実施(年5回以上)
方 策	○オンライン授業についての研修を行う。(つなぎ方、より分かりやすく伝える手立てや課題提示の仕方、課題のやり取り等) ○模擬授業を通して教員同士で意見を交換したり、課題点を検討したりする。
達成度	○研修会を5回以上行うことができた。日常の場面でも教員同士で話し合ったり試行錯誤したりする場面があった。 ○教員同士で模擬授業を行い、方法を確かめ合ったり、課題を共通理解したりすることができた。実際のオンライン授業から実践し課題を見付けることができた。
具体的な取組状況	○研修会(つなぎ方、画面共有の仕方、課題の出し方、模擬授業) 4回 ○実際のオンライン授業を通しての課題把握 2回 ○メタバース研修会への参加 2回
評 価	A 教員のオンライン授業のスキルが講義や練習、実践を通して向上した。実際のオンライン授業ができたことで、そこから新たな課題を見付けることもできた。
学校関係者の意見	オンライン授業における教師のスキル向上について、成果があったことがうかがえる。オンライン授業を受けた生徒と保護者の評価も取り入れ、更なる活用を図ってほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した通信状況でオンライン授業を行うためのオンライン機器の環境整備</li> <li>・個々の生徒の実態に応じた時間配分や授業内容の精選の検討</li> <li>・教師、生徒双方の更なるオンライン授業スキルの向上</li> <li>・双方向のやり取りを行うためのより簡略な方法の模索とマニュアル作成</li> <li>・生徒と保護者からのオンライン授業における評価の聴取と満足度の検証</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン —2—

重点項目	学校生活(生活支援部)	
重点課題	危機管理マニュアルの見直し、新規作成と訓練の実施	
現 状	<p>○現在の緊急時対応マニュアルが複数ページにわたり、内容が複雑で、有事に誰が何をすべきか分かりにくい。</p> <p>○傷病者の緊急対応時のマニュアルはあるが、富山病院ですぐに受診できるため活用されていない。他病院に緊急搬送するマニュアルは作成されておらず、緊急対応の訓練も行っていない。</p>	
達成目標	<p>○危機管理マニュアルの見直し及び新規作成に取り組む。</p> <p>○地震や火災等の避難訓練、傷病者緊急対応訓練を年3回以上実施し、その都度マニュアルの改善を行う。</p>	
方 策	<p>○地震・火災等の災害時の対応及び熱中症対応マニュアルを整理・見直すとともに、傷病者の緊急対応マニュアルを新たに作成する。</p> <p>○マニュアルの見直し・新規作成後、教職員への周知を図り、避難訓練及び傷病者の緊急対応訓練を年3回以上実施する。</p> <p>○訓練後には、行動の流れやマニュアルの使いやすさ等の意見を収集・分析し、次の改善に反映する。</p>	
達成度	<p>○危機管理マニュアルの見直し及び新規作成に取り組んだ。</p> <p>○地震や火災等の避難訓練、傷病者緊急対応訓練を年6回実施し、その都度マニュアルの改善を行った。</p>	
具体的な取組状況	<p>○危機管理マニュアルの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害・緊急対応傷病者発生時における富山病院との確認事項(最終避難場所、避難経路、連絡体制等)について確認した。</li> <li>・土砂災害のマニュアル作成に向け、県砂防課の担当者と1～3次避難場所、避難経路(渡り廊下)の安全性、前兆現象の監視場所、3次避難のタイミング等について現地確認した。</li> </ul> <p>○傷病者対応(熱中症含む)、熊侵入時対応マニュアルの新規作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺で熊の目撃情報が相次いだため、熊侵入時の対応マニュアルも新規作成した。</li> </ul> <p>○マニュアルの見直し・新規作成後、職員会議や訓練を通しての教職員への周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練3回 実施 (火災の避難訓練前に、屋内消火栓を使った初期消火の訓練を実施)</li> <li>・緊急対応訓練2回実施</li> </ul> <p>○避難訓練・緊急対応訓練後、アンケートを実施して意見を収集し、マニュアルや動きを見直して改善した。</p>	
評 価	A	<p>危機管理マニュアルの見直し及び新規作成については、火災・地震・土砂災害・不審者・弾道ミサイルのマニュアルを見直し、傷病者発生時・熊侵入時の対応のマニュアルを新規作成した。避難訓練・緊急対応訓練については、見直した点や新規マニュアルの内容を職員会議等で周知した上で、年間で6回実施した。さらに、実施後のアンケートや消防署・富山病院・県砂防課との連携によりマニュアルを改善した。</p>
学校関係者の意見	<p>学校を挙げて丁寧に取り組んでいる。外部の関係機関と連携して進めていることも良い。他校と良いアイデアを共有して、良いものは取り入れていけば良い。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>今年度改善、新規作成を行ったマニュアルとアクションカードを活用した訓練を実施し、その都度反省、見直しを行いながら、より良い危機管理マニュアルに改善していく。他校とマニュアルやアクションカードを共有し、良いアイデアは取り入れていく。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)